

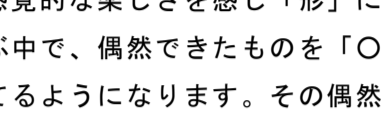
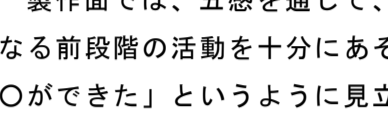


★★1学期Ⅲ期・6月中旬～7月教育課程(指導計画)★★

<年少3歳児・れんげ>

年少の園生活も3ヶ月が経ち、生活の流れ、準備、片付け、トイレなど見通しを持って行動ができるようになってきています。自分の身の回りのことを自分の力でやろうとする姿が、定着してきました。そして、この時期の活動であるプールあそび、どろんこあそび等の準備や片付け、身辺を整える(服の着脱、整理、身支度等)今までの経験を生かして、自分で考えて行動することができることでしょう。

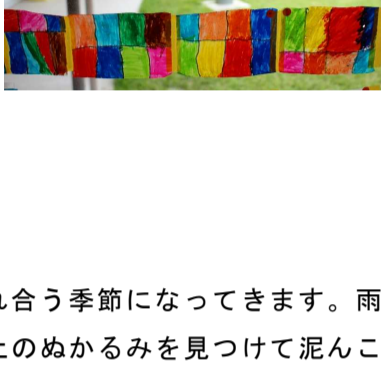
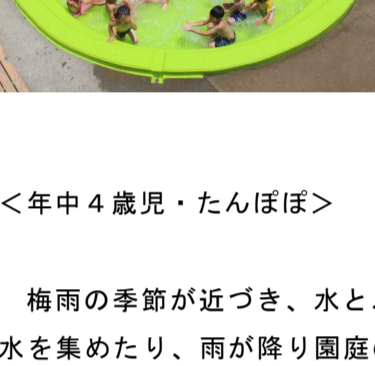
家族参観では、大好きなお家の人が幼稚園にあそびに来てくれることに子どもなりに喜びや期待を感じ、歌・ダンス・製作に意欲的に取り組み、自分の成長を認められ、ほめてもらえることで自己肯定感や家族の関係が深まることでしょう。



製作面では、五感を通して、感覚的な楽しさを感じ「形」になる前段階の活動を十分にあそぶ中で、偶然できたものを「〇〇ができた」というように見立てるようになります。その偶然の見立てから、これをつくりたいと意識してモノづくりをするようになっていきます。その時に、ただつくるのではなく、きれいとか、丁寧とかを意識できるように、道具(クレヨン・ハサミ・のり)の使い方、子どもがていねいにつくりたいくなるような設定をすることで、黒い線の上を切る・のりの適量・クレヨンを隅まで塗り込むことを意識します。その後、物事に対してじっくりと深く取り組む姿勢を育てていきます。

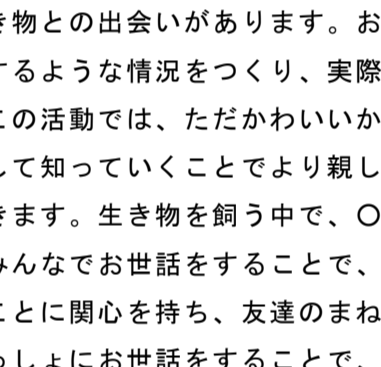
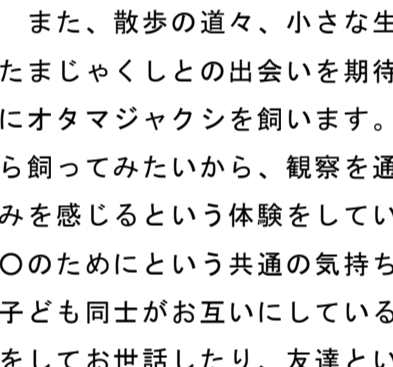
七夕の活動では、「ピカちゃん・チカちゃん」の物語(フィクション)を取り入れることで、愛着関係を軸に「何のために、何をするのか?」(大好きなピカ・チカちゃんが喜んでくれるように、きれいに作ったり、ていねいに作ってあげたい)という行動目的を感じ、意欲的に取り組む姿が出てくるように保育者が、支えています。

また、保育者が子どもたちと、自分ではないものになりきってあそぶ劇的活動をします。フィクションの世界であそぶことの楽しさや、その楽しさをクラスのみならず共感しながらあそぶことの楽しさを体験していきます。



<年中4歳児・たんぽぽ>

梅雨の季節が近づき、水とふれ合う季節になってきます。雨水を集めたり、雨が降り園庭の土のぬかるみを見つけて泥んこ遊びに夢中になったりします。その流れを受けて、絵の具を素材として体験していきます。五感を通して絵の具を使っていくことで、「色が混ざった。」「紙についた。」と色々なことを発見し、面白さや不思議さなどを感じて楽しんでいきます。そして、絵の具を使った技法を楽しみながら、表現の楽しさを体験していきます。こういった活動を通して、発見したことを保育者や子ども同士で面白がったり、共感していくことでひとりひとりのあそびが深まっていくことで、豊かな感受性(感じて気づく)が培われていきます。

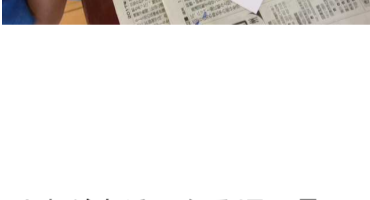
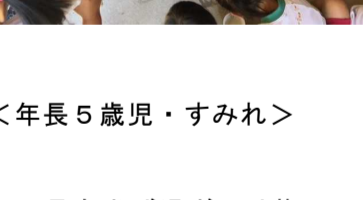


また、散歩の道々、小さな生き物との出会いがあります。おたまじゃくしとの出会いを期待するような状況をつくり、実際にオタマジャクシを飼います。この活動では、ただかわいいから飼ってみたいから、観察を通して知っていくことでより親しみを感じるという体験をしていきます。生き物を飼う中で、〇〇のためにという共通の気持ちみんなでお世話をすることで、子ども同士がお互いに行っていることに関心を持ち、友達のまねをしてお世話したり、友達といっしょにお世話をすることで、個々だった子どもたちに横との繋がりが出てきます。

そういった中で、保育者は情況(願いが叶う七夕など)をつくりクラスのみならず同じ行動目的を持って、そのためには、何をどうすればよいかを考え、実際に行動するという活動につなげていきます。みんなが、達成感を感じ喜び合うという体験をしていきます。

また、自分とは違う何者かになりきって劇的活動を楽しむことで、フィクションの世界であそぶことの楽しさを体験していきます。ここでも、フィクションの世界で子どもたちは共通の行動目的を感じ合い、ひとつのあそびをあそびきっていくことで更に子どもたち同士の関係性を深めていきます。

そして、そんな友達みんなと親元を離れて生活することに、安心して挑めるようになります。みんなが幼稚園に泊まり生活をすることを楽しみやり遂げることで、自己肯定感や自己効力感につなげていきます。



<年長5歳児・すみれ>

6月も半ば過ぎには梅雨に入り水が身近になる頃、暑い日の水遊びなどの中に、絵の具などの素材特性を生かしたあそびや水の性質を利用したドロンコあそびなどをあそび込みながら、創造的にいろいろと試していくような姿が出てきたり、造形的なモノづくりをしたくなるような環境をは設定していきます。

また、これまでの協同的活動を通して、情況の中でひとりひとりが、自分がどうしたいかを考え、伝え合い共に行動する姿が出てきました。そこで、次に、フィクションの中であそびを進めていながら、その中に登場する子どもの相手役や対立人物の5W(いつ・どこで・誰が・何を・どうしている)等をイメージすることで、想像をめぐらせながら、自分たちの目的を達成させるためには、何をどうすればいいのかをみんなが考え、伝え合い、協力していきます。そうすることで、共通目的を持ってみんなでそれを達成することの喜びを確かなものとして体験していきます。しかし、子どもたちだけでは見通しが持てないときには、保育者がいっしょに状況を整理しながら、子どもたちの発想を助けて、あそびを深め展開できるように支えていきます。

みんなが幼稚園に泊まるという集団生活することを楽しみに感じ、自分のしたいことを伝え合ったり、計画を立てる経験をする中で、親元から離れて生活することをポジティブに捉え参加できるようにしていきます。そして、共同生活を成り立たせる「自分のことはみんなのこと。みんなのことは自分のこと」という体験を通して、「自分のことは自分で」と主体的、自立的に行動し、保育者からの指示を待つだけでなく、生活の流れの中で見通しを持って「自分で考え判断して行動する」という体験につなげていきます。

